

(様式2)

平成20年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立工業高等学校(定時制)

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 学習成果の確認と全員卒業の達成	定期考査を欠席せず、学習の成果を確認する。	定期考査の欠席者が A 10%以内 B 15%以内 C 20%以内 D 20%超	判定 A 欠席率5.8% 中間7/112名+期末3/60名 (56人×2回) (30人×2回)	従来、定期考査を欠席する者が多かったので毎年取り組んでいた。閉校時期がせまり、生徒に卒業する意欲が出てきたためと思われる。今年3月で閉校なので次年度の扱いについては省略する。以下の項目についても同様である。
	退学者が出ず、在籍生徒全員の卒業を達成する。	20年度在籍者6名の A 前期卒業3名を含む全員卒業 B 全員卒業 C 進路変更者あり D 退学者あり	判定 A 前期3名卒業+後期3名卒業 計6名全員卒業	閉校をひかえた本校にとって、今年度の一番重要な目標である。前期に3名が無事卒業した。残された3名の卒業判定はまだであるが、現在の時点で卒業は間違いのないと思われる。
学校関係者評価委員会の評価	・最後の年に全員の卒業を達成できたことは良かった。 ・評価Aは生徒の人数が減少し指導しやすくなったこともある。必要な学力が身に付き、試験でその成果が示されたかも大事である。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・今年度で閉校となるので今後のことについては省略する。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2 基本的な生活習慣の確立とマナーの向上	遅刻の防止に努める。	全校の遅刻率が A 10%以内 B 20%以内 C 30%以内 D 30%超	判定 B 遅刻率15.2% 中間83/522 + 期末32/234	昨年度は16.1%であったので、今年度少し良くなった。基本的な生活習慣確立の基本は遅刻防止にありと取り組んできたが、生徒の仕事の関係もあり今一步であった。
	欠席状況や生徒の就業状況から問題行動の早期発見に努め、保護者と連携して解決にあたる。	全校の欠席率が A 10%以内 B 20%以内 C 30%以内 D 30%超	判定 A 欠席率9.7% 中間52/522 + 期末21/234	「働きながら学ぶ」定時制の生徒にとって、この取組は重要である。仕事や怠学の関係で、ついつい学校を休む傾向のある本校生に実態を数値として把握させ自覚を持たせるように努力してきた。欠席率は年々減少してきている。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 本校の生徒は全員仕事を持っており、雇用主との関係や自分に与えられた仕事の進行具合によって、遅刻したり欠席したりすることはやむを得ない面がある。そのような生徒をいかに支えていくことが大事である。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 今年度で閉校となるので今後のことについては省略する。 			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
3「楽しい学校づくり・思い出づくり」の推進	各種の学校行事に参加し、「楽しい学校づくり」に努める。	年間の行事参加率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	判定 A 参加率86.2% 中間337/384 + 期末56/72 (64h×6人) (24h×3人)	昨年度から始めた「そば打ち体験」と「ボランティア清掃」及び今年初めて行った「テーブルマナー」は、生徒の評判がよかった。また、昨年度は79.6%で今一歩足りずB判定であったが、今年度は年間を通じて行事の参加率は良好であった。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制でも、授業だけでなく様々な行事に取り組んでいることを知り良かったと思う。ただ、そのような行事を通して生徒自身が感じたことを感想文に書かせて文集を作ると良いのではないか。(既に取り組んでいるものもあり) 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度で閉校となるので今後のことについては省略する。 			